

第1学年 保健体育科（体育分野）学習指導案

指導者 ** **

1 単元名

球技「ベースボール型（ソフトボール）」

2 単元の目標

- (1) 安定したバット操作と走塁での攻撃、ボール操作と連携した守備などによって攻防をすることができるようにする。
〔知識及び技能〕
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。
〔思考力、判断力、表現力等〕
- (3) 球技に自主的に取り組むとともに、フェアなプレイを大切にしようとする、互いに助け合い教え合おうとすることなどや、健康・安全を確保することすることができるようにする。
〔学びに向かう力、人間性等〕

3 単元について

(1) 教材観

ソフトボールはベースボール型の球技で、身体やバットの操作と走塁の攻撃、ボール操作と位置での守備などによって攻守を規則的に交代し、一定の回数内で相手チームより多くの得点を競い合うゲームである。ベースボール型の学習においては、ベースボール型の種目に共通する動きを身につけることが大切である。第1学年では、勝敗を競う楽しさや喜びを味わい、体力の高め方や運動観察の方法などを理解するとともに、作戦に応じた技能で仲間と連携しゲームを展開することができるようにする。その際、攻防などの自己やチームの課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。また、学習に自主的に取り組み、話し合いに貢献することや一人一人の違いに応じた課題や挑戦を大切にすることなどに意欲をもち、健康や安全を確保することができるようにする。

(2) 生徒の実態

本校生徒は、体育の授業に対して非常に肯定的な感情を持っており、運動意欲が高い。文武両道を目指す生徒が多く、運動だけでなく勉強にも力を入れている。そのような実態の中で、体育の授業は、生徒の心身の健康を保持増進するために重要な役割を担っている。

対象クラスは、男子**人（*組**人、*組**人）のうち*割の生徒が運動部に所属しており、体育の授業に対する意欲は他のクラスと同様に非常に高い。投げる力については、対象クラスの平均は26.93m、野球部に所属している生徒以外の平均も25.92mとなっており、県（23.51m）や全国（23.87m）の平均値を上回っている。体力テストのアンケートからも、*割の生徒が「体育の授業が好き」と回答している。また、その中での体育の授業に求めるものとして、「（心身の）リフレッシュ」が*割、「体力づくり」が*割を占めている。一方、「仲間との交流」については、*割を下回っている状態である。

(3) 指導観

本単元では、易しい投球に対する安定したバット操作により出塁、進塁、得点する攻撃と仲間と連携した守備のバランスのとれた攻撃を展開できるようにすることを目指していく。自己や仲間の課題を発見し、これまで学習した知識や技能を活用して、学習課題への取り組み方を工夫したり、自己や仲間の課題の発見や解決に向けて考えたりしたことを、他者にわかりやすく伝えられるようにしていく。

4 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①技術の名称や行い方について、学習した具体例を挙げている。 ②運動観察の方法について、理解したことを言ったり書き出したりしている。 ③試合の行い方について、学習した具体例を挙げている。	○技能 ○安定したバット操作 ①タイミングを合わせてボールをとらえることができる。 ○ボール操作 ②捕球場所へ最短距離で移動して、相手の打ったボールをとることができる。 ○連携した守備 ③味方からの送球を受けるために、走者の進む先の塁に動くことができる。	①自己や仲間の技術的な課題や課題解決のための改善点について、自己の考えを伝えている。 ②作戦などの話合いの場面で、合意を形成するための適切なかわり方を見付けている。	①健康・安全を確保することができる。 ②一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。 ③互いに助け合い教え合おうとしている。 ④ソフトボールの学習に自主的に取り組もうとしている。

5 指導と評価の計画 (15 時間扱い)

時		1	2	3	4 (本時)	5	6	7	8	9	10～15
学 習 の 流 れ	0	○健康観察 ○本時のねらいと内容の確認 ○準備運動									
	10	○オリ エン テー ショ ン ○習得技 術の確認 ○学 習 の 進め方 ○知 識 の 学 習 ○ワ ー ク シ ー ト の 活用	セルフワーク・ペアワーク・チームワーク ○ベースランニング ○守備の基本動作 ○キャッチボール ○ゴロ捕球練習 ○フライ捕球練習								チームワーク ○チーム別アップ
	20		ペアワーク ○打撃練習 ・バットの握り方 ・構え方 ・タイミングの取り方 ・バット操作の仕方	ペアワーク ○守備練習 ・構え方 ・グラブ操作の仕方 ・ステップの踏み方	ペアワーク ○審判法 ・コール (アウト／セーフ) ・フォースプレー ・タグプレー ・投球判定	クラスワーク ○簡易ゲームの進め方 ○試しのゲーム	クラスワーク ○試合 (ケースを設定) ①無死1 塁 ②無死2 塁 ③無死3 塁 ④無死1 2 塁 ⑤無死1 3 塁 ⑥通常				
	30										
	40		チームワーク ○ペッパーゲーム (動画撮影)	チームワーク ○ノック (動画撮影)	チームワーク ○判定練習						
	50		クラスワーク ○整理運動 ○学習のまとめと本時の振り返り ○次時の確認 ○健康観察								
知	①カード				②カード			③カード			
評 価 の 機 会	技			① I C T			②観察			③観察	
	思			①カード			② I C T				
	態		①観察 カード		②観察 カード				③観察 カード	④観察 カード	

6 本時の展開（4／15 時間）

(1) 本時の目標

○タイミングを合わせてボールをとらえることができる。

（知識及び技能）

○一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。

（学びに向かう力、人間性等）

(2) 準備・資料

グラブ、バット、ボール、ベース、パイプイス、マーカー、タブレット端末

(3) 展開

時間	学習内容と学習活動	○教師の指導・支援 ◆評価規準と方法
導入 5分	1 整列、挨拶、健康観察 2 本時のめあての確認	○一人一人の体調を把握するとともに、体調の変化に気が付く力をつけることができるように、集合時の表情を確認するだけでなく、体調の変化や、体の変調がないか問いかける。
	バッティング動作を解析して、どうすれば自己や仲間の課題を解決できるかを伝え合おう。	
	3 準備運動、ランニング	
展開 35分	4 スキルウォーミングアップ ①ベースランニング ・一塁駆け抜け ・一塁から三塁（最後はベースストップ） ・三塁タッチアップ ②ピッチング練習 ③キャッチボール ④ゴロ捕球練習 ⑤フライ捕球練習 ②～⑤は2分ずつ行う。 互いに声を掛け合いながら、注意すべきポイントを意識して行う。 5 ペッパーゲーム （同時に動画撮影を行う。） ①バッター ②撮影者 ③キャッチャー ④ピッチャー ⑤守備 以上の役割を2分交代でローテーションする。 撮影者は、バッターにアドバイスをしながら動画撮影を行う。	①⑤ではチームワークの中、②～④ではペアワークの中で互いの課題を発見したり、解決のためのアドバイスを送り合ったりするように促す。 また、練習の合間に以下のポイントを確認させ、目的意識を持って練習ができるよう促す。 ○ベースランニング：体を内側に倒すこと ○ピッチング：手の平を下にして投げ終わること ○ゴロ捕球：肩幅の約2倍の広さに足を広げて膝を外側に開くこと、グラブ側の足を踏み出しながら捕球すること ○フライ捕球：ワンバウンドで捕球するような感覚でフライに接近すること ○安全面への配慮と安定したバット操作を行うため、バットを力一杯振らないように注意する。 ○仲間の技術的な課題を発見することが難しい生徒に対しては、観察する際のポイントが明確になるよう、予めチェック項目を示しておく。 ①バックスイング（一度軸足に体重を乗せる。） ②ヒッチ（バックスイングと同時に両手を軸足側の腰の高さまで下げて、体の並進運動とともに肩の高さ位に上げる。） ③各自が気づいたことや、一人一人の違いのある中での良い点 ○安全面への配慮は、十分に行う。特に、ピッチャーと撮影者の安全が確保されていることを確認させる。
		◆評価規準 一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとしている。（主体的に学習に取り組む態度）【観察・学習カード】

ま と め 1 0 分		◆評価規準 タイミングを合わせてボールをとらえることができる。 (知識・技能) 【I C T】
	6 バッティングのデモンストレーション	○打球音や飛距離に触れさせるため、安全に配慮した上で、打者の近く（後方）から観察できるようにする。（感性メーターに記入させる。） ○ピッチャーの安全を確保するため、防球ネットを使用する。
	7 ワークシート記入 8 次時の予告	○以下の2点について、具体的に記述するよう指示する。 ①相手に送ったアドバイス ②相手からもらったアドバイスと自己分析の結果から設定したバッティングについての課題。